

2020年2月27日

高松司教区の皆さんに

教区司教 諏訪榮治郎

「新型コロナウイルスへの対応について」

十主の平和

四旬節を迎え、あらためて悔い改めへの呼びかけを意識する時期となりました。ともに、希望をもって、祈り、節制(断食)、慈愛に努めたいと願っています。

心配しておりましたが、四国にも新型コロナウイルスによる発症が見られました。現時点では教区内に感染が広がるかどうかは不明ですが、教区としての方針をお知らせしたいと思います。

今回のウイルスについては「未知の点が多いもののインフルエンザウイルス感染に準じた対策が必要であり、高齢者や基礎疾患を持つ人への感染では重篤化する可能性があり、感染伝播力は予想以上に強い可能性がある」と言われているのを受けてのことです。飛沫感染や接触感染で伝播するため、閉じられた場所に多数の人が一定時間過ごしたり、呼吸器から出た飛沫で汚染したものに接触することで感染拡大が起きるとされています。また、感染しても軽症または無症状な状態があり、この間にも感染源となるようです。初期症状としては、軽い熱、のどの痛み、咳、身体がだるいなどが言われています。

- 1)ミサは義務でなく、私たちへの神さまからの恵みです。しかし、多数の人たちが一緒に過ごすことは感染拡大の危険をおかすことになり、私たちの社会的な責任として主日のミサに集うことも控えたいと思います。国や自治体から公に集会やイベントの禁止などの措置が出た場合には、それに従って下さい。
- 2)その場合も各小教区のミサは、主日も平日も通常通りに行ってください。個人的にミサに与ることを控えるように勧めるものではありません。
- 3)しかし、主日も平日も、感染の疑いがある場合にはミサへの出席は控えてください。
- 4)一般的な衛生対策としてこまめな手洗いを心がけ、聖堂、信徒会館などの入口に消毒用アルコールを設置するようにしましょう。また、祭壇奉仕をする人、司祭、侍者らは、ミサの前に必ず手を洗い消毒もし、不用意にドアなどに触れないで下さい。
- 5)感染者に対する排除や非科学的な憶測での差別的言動も見られますが、このような動きに乗ぜられることのないように御注意ください。感染を防ぐために感染者の「隔離」は当然必要なことですが、それは「排除」とは異なります。私たちには感染した人を心配するより、自分たちが危なくなることを心配する傾向がありますが、このような事態にこそむしろ、私たちが苦しむ人のそばにいて支えていることを感じて貰えるように心を砕きたいと思います。
- 6)3月7日に予定されている「宣教司牧評議会」は延期いたします。

なお、事態の推移を見たとえで必要があれば、あらためて連絡いたします。